

# 鹿児島中看護専門学校 3年課程看護科 令和4年度 学校自己評価結果

(4:とても良い 3:概ね良い 2:不十分 1:全くできていない)

評価項目	評価	考 察	今後の課題	
教育理念・目標	1.教育理念・教育目的・卒業生像に一貫性があるか	3.8	令和4年度入学生から新カリキュラムを運用しており、本校の教育理念、教育目的は、新カリキュラムの主旨に十分対応し、慈愛会の理念も含めて一貫性があることを再認識、再共有している。また、教育理念、教育目標をもとに本校のディプロマポリシーを明確にし、教育課程を編成できた。今後も教職員がしっかりとベクトルを合わせて教授活動につなげることが大事である。	令和5年度も一貫した教育理念、教育目標をもとに設定した8つのディプロマポリシーを目指して教職員一同がベクトルをあわせ教育活動に反映していく。
	2.教育理念・教育目的は、学校における看護基礎教育の特徴を明確にしているか	3.8		
	3.社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想があるか	3.4	ICT環境整備や放送大学とのダブルスクール制など社会のニーズを踏まえて支援している。放送大学では、履修生同士の仲間づくり、計画的な学習への取り組みに向けて、放送大学の学習支援パスの作成を行った。 島しょや民泊体験を積極的に取り入れ、地域に根差した看護者を育成する試みを行っている。また、臨床判断能力を身につけるためのシミュレーターなどの環境を整えていっており、将来の教育活動をふまえた教育環境づくりに取組んでいる。 学校移転計画を事業計画に掲げており、本年度は新設の学校を見学し、看護学校の将来像を見据えた学校づくりを構想中である。	新校舎にむけて学校移転プロジェクトを進め、地域や病院とつながる学校づくりを進めていく。
	4.教育理念・教育目的・卒業生像・学校の特徴等は、学生・保護者・関係施設等に周知されているか	3.3	学生便覧に明記し、ホームページ、オープンキャンパス、高校訪問、等でも説明していて、学生や保護者へは周知されている。学生には本年度も入学オリエンテーションを行い、8月の学生アンケートでは1年生98%、2年生93%、3年生85%が「理解している」「まあまあ理解している」と答えている。関連施設とは会議等で周知を図っているが、まだ不足しているという意見もあった。	関連施設への周知に関しては、学校のビジョンをしっかりと実習に落とし込んで、それを会議等を通してさらに浸透できるようにしていく。
学校運営	5.教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.7	学校運営については、本校は公益財団法人慈愛会の中の一施設として健全に運営されている。年度ごとの事業計画、教育目標及び教育の質の向上を目指してSWOT分析を行い、戦略を立てBSC(事業計画)で目標設定、具体的なアクションプラン、実施、評価へとつなげている。また年度ごとの教育目標、事業計画を学年目標に繋げ活動している。また、新カリキュラムでは、ディプロマポリシー到達のため、各教育内容に獲得能力を可視化した。	令和5年度も事業計画に沿って新カリキュラムを運用していく。
	6.運営方針に沿った事業計画が立案されているか	3.4		
	7.運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化され、有効に機能しているか	3.4	学校運営会議や教職員会議等は学則、その他の規定等において明文化され、意思決定の機関として機能している。困難な事例もあるが、全員で共有しながら意思決定している。	今後も学則やその他の規定が職員間で共通理解できるようにしていく。
	8.人事、給与に関する制度は、整備されているか	3.3	人事、給与に関する制度は、就業規則や給与表で整備されている。ラダー取得後の手当に関しては、本校の強みである。それを活用した支援を継続していく。 自宅や休日に仕事をするところがあるとの意見もある。事前に申請のあった職員には就業時間、超過勤務での対応としている。申請をしっかりともらい今後も対応していく。	教職員が働きやすい職場となるように今後も意見を集約し改善していく。
	9.教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.1	教務・財務等の組織整備は組織図、業務分担表、業務基準規程等に明文化、意思決定システムの整備がされており、職員の役割の明確化、業務の指針になっている。毎年、業務分掌が作成され、提示されているが、不明瞭な所もあったとの意見もあり、昨年度より低くなっている。全員が共通理解できるようにしていく。	業務分掌がわかりやすく職員全員が共通理解できるようにしていく。

評価項目		評価	考 察	今後の課題
学校運営	10. 関連施設や地域社会等のニーズに対応する体制が整備されているか	3.5	関連施設や地域社会のニーズに対応するため各種団体に参加し、情報収集や研修の機会を得ている。また関連施設の協力、連携が図れることは本校の強みである。定期的な管理者会議、実習指導者会議等への参画により、学校の状況を報告し、また、臨床現場の状況もタイムリーに把握でき、教員間で共有している。更に鹿児島県看護教育協議会、看護協会、看護連盟等での研修会に積極的に携わり、教育活動に活かしている	
	11. 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.6	本校の教育活動は、ホームページや SNS 等で学生の学習の様子、行事や教育自己評価、学校関係者評価、シラバス等も公表し、また看護協会や県の依頼を受けたテレビ等での学校紹介、高等学校訪問やオープンキャンパス等でもパンフレットを使用して周知しており、令和 4 年度の入学者確保にも繋がった。ホームページではタイムリーな情報提供ができており、令和 3 年度から取り組んだ授業評価結果も公表していく予定である。ただ、様々な ICT 化が進み活用される一方で、個人情報保護や著作権侵害の可能性なども懸念され脅威でもある	
学校運営	12. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.5	マニュアル整備、共有ファイルや Teams を活用した情報システム化（成績入力システム、出席管理のシステム入力、Teams での学生の健康管理、情報共有等）を継続して進めてきており、更に令和 3 年度からは、タスクシフティング推進のために教務事務を配置した。これまで専任教員が担ってきた多くの事務的作業の移譲が進んだ。 本年度は、講義資料等のペーパーレス化に取り組み、ICT 進めてきているが、課題も見えてきている。いかに課題を解決していくかが重要であると考える。	ICT を進めながらも、でてきた課題の解決に取り組む、業務の効率化や教育活動の充実を図っていく。
	13. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.4	学生便覧、シラバス、年間計画（講義計画、実習配置）など、教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている 本年度は、新カリキュラムと旧カリキュラムが混在する中で、進度に問題がみられることもあり、その都度調整を行った。また、新カリキュラムが確実に運用されているか、教育活動の評価をしっかりと行っていく必要がある。	次年度も新カリキュラムと旧カリキュラムが混在しているため、非常勤講師への説明を確実に言い調整していく。
教育活動	14. 教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.3	学生が主体的に学べるように学年ごとの学習目標や 学年目標を立て、到達レベルに達するように取り組んでいる。また、各学年の年度初めのカリキュラムガイダンスでは、卒業時の到達目標を確認し、3 年生の 4 月と卒業時に到達度調査を実施している。新カリキュラムにおいては、ルーブリックを用いて中間評価、学年末評価を行い自己の課題に気づけるような取り組みをしている。 また、学生が計画的に学習を進められるように毎月の日課表は前月には公表配布し、できるだけ学生の自己学習時間を確保できるように年間講義を計画している。 令和 5 年度も学生が到達レベルを意識して主体的に学習に臨めるように、時間や学習環境を調整し支援していく。	
	15. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.4	教育課程の構造図、教育課程の考え方、カリキュラムの順序性など体系的に編成されている 本年度は、全教員でカリキュラムマップを作製し共有した。	今後カリキュラムマップの周知、活用をすすめていく。
	16. 実践的な看護教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか	3.4	令和 4 年度も実践的な教育として実習でのポートフォリオ学習、災害時トリアージ演習、基礎実習前シミュレーション学習、オスキーを活用した臨床能力育成のための統合看護技術演習などを継続して行い、その都度評価しながら次年度に繋がる課題を見出している。 新カリキュラムでは、臨床判断能力 I、看護薬理など学生が知識をつなぎ学びを深められるような教育方法の工夫を実施している。教育方法としてジグソー学習などの協同学習やプロジェクト学習、グループ演習や課題発表等を積極的に取り入れている。	令和 5 年度は新カリキュラムが 2 学年となりさらに学びをつなげていく科目があるため教育方法を工夫しながら実施していく。

評価項目		評価	考 察	今後の課題
教育活動	17.実践的な看護教育演習・臨地実習等、が体系的に位置づけられているか	3.5	1年次の基礎看護学実習Ⅰ-1ではコロナ感染症の影響でほとんどが学内となった中、臨床の看護師とオンラインでのグループディスカッションを行うなど臨床での患者様の生活の様子や看護師の日頃の思いなどを知る機会になったとともに、コロナ禍の中での臨床現場の感染対策の厳しさや、学校と臨床が協力して自分達のために学習環境を整備してくれることへの感謝の感想も聞かれた。	シナリオ、アンモデルなど活用しながらシミュレーション教育を全教員で取り組み学生の充実した学びにつなげられるようにしていく。
	18.授業評価の実施・評価体制はあるか	3.1	本年度も「講義」「演習」「実習」の授業評価に取り組んだ。評価は全項目4.0から5.0の範囲にあり高い評価であった。 授業評価には、学生も慣れては来ているが終講が重なった際などの投稿数に課題がある。今後、内容を見直し効果的な評価方法を検討していくとともに、学生にも評価の意義について伝えていく。	授業評価の内容、項目の見直しを行い次年度も継続していく。
	19.成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.5	成績評価、単位認定の基準の明確化については、学則や履修規程、実習要項に明示しており、実習のルーブリックも効果的な評価基準の見直しを毎年実施している。実習評価基準（ルーブリック）も毎年見直しをしている。今後も学生の学びの状況を踏まえながら、公平な評価基準となるように検討していく。	新カリキュラムの運用の中で実習のルーブリックの見直しを行っている。
	20.カリキュラムの見直しは定期的に行っているか	3.7	令和4年度から新カリキュラムの運用をしている。本年度もカリキュラム委員会を開催し、新カリキュラムの運用状況を検討するなどしてきた。今後も教育課程について定期的に検討をし、教育内容の精選、教育技法等も見直しをしていく。	
	21.臨地実習の計画・実習指導の見直しは定期的に行っているか	3.3	臨地実習計画、実習指導の見直しについては、各科目の担当者を中心に実習関連会議で計画的な検討、見直しを実施している。 令和4年度は新カリキュラムと旧カリキュラムの実習が混在していたため、臨床指導者、スタッフの混乱が無いように、指導者会議等で説明を行ってきた。令和5年度も、新カリキュラムの2年次の実習が開始となるため臨床指導者にその趣旨をしっかりと伝えて効果的な実習が行えるようにしていく。	新カリキュラムの2年次が開始されるので臨床としっかり連携して効果的に実習が行えるようにしていく。
	22.年度初めにカリキュラムガイダンスを行っているか	3.7	令和4年度も学年でカリキュラムガイダンスを行った。新カリキュラムにおいて科目間の関連などその都度ごとの周知できるようにしていく。	
教育活動	23.学生便覧は内容構成は工夫して作成されているか	3.3	学生便覧の内容構成については工夫し、作成している。 1年生の学生アンケートでは、84%の学生が学生便覧やシラバスを活用していると回答し、昨年度の83%よりもやや活用度が上がっている。iPadで学生は見るようになるようになっているが、必要な際に必要な内容を学生が確認できるように教員からの働きかけは続けていく必要がある。	iPad内で学生が必要箇所を検索しやすいように掲載していく。
	24.学生便覧は学生が活用しているか	2.8		
	25.シラバスが作成され、学生に説明しているか	3.3	昨年度同様、カリキュラムガイダンスで科目間の関連の理解を含め説明するとともに、シラバスの冊子を用いて科目開講時に学習目標、学習内容を確認し説明をした。シラバスもiPadに掲載しているが検索する際に時間を要するため、掲載方法を変更し検索しやすいようにしていく。	
	26.科目に合わせて、専門性を発揮できるように担当教員専任・非常勤を配置しているか	3.4	関連施設の協力を得て、科目に合わせた専門性を発揮できる講師を配置できている。	
	27.教員の講義時間の配分は経験年数・授業内容を考慮したものになっているか	3.0	教員の年間講義時間は経験や技術演習担当の状況を踏まえて計画している。養成所指定規則ガイドラインに基づく専任教員の講義時間数（15時間/W）の基準は維持している。各領域看護学、専任教員必要数は基準を満たしているが、もう少し教員個々のスキルアップに努める必要がありさらに支援していく必要がある。	

評価項目		評価	考 察	今後の課題
教育活動	28.資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.3	<p>国家試験対策は、3年間を通して支援できるパスに準じて、学年ごとに学習支援計画、模擬試験等が計画的に時間割に入れられ、実施できる。例年に引き続き3年生の国家試験強化学習も全員で支援する体制は継続でき、効果を上げている。</p> <p>令和3年度からは放送大学との併修制度も導入し、学生の資格取得の道を拡げることができている。</p>	
	29.看護基礎教育の授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.8	<p>専任教員有資格者は91.6%であり、高い基準を維持できている。しかし、教員の意見として「一人の教員の負担する業務量が多く、学生に向き合う時間を確保することが難しかった。人員不足がある」などの意見があることから、教員個々のスキルアップに努める必要があるとともに、支援が必要がある。</p>	<p>教員一人ひとりのキャリアアップと教員確保への働きかけをすると共に、業務分担（学年担当1名）を変更し業務の偏りを調整していく。</p>
	30.看護基礎教育に適した教員専任・非常勤を含むを確保するためのマネジメントが行われているか	2.8	<p>令和4年度は、4月に専任教員の1名の離職があり、人員不足を感じている職員が多かった。また、1名の講師の病気療養のため講義を専任教員が担当した。専任教員・実習担当充足に向けては、ハローワークや卒業生にアプローチし補充できたが、教職員の確保は今後も課題である。現場からの異動システムの整備できるように働きかける必要がある。</p>	
	31.教職員の指導力育成や能力開発などのための取り組み等が行われているか	2.9	<p>年3回の目標面接、人事考課の実施や必要時面接を実施している。更に看護教員キャリア開発プログラムが本格運用され、前述の通り、対象者全員がラダー認定申請をしている。</p> <p>また、令和4年度は教務主任養成講習会受講の2名が受講を終了した。慈愛会学会では研究発表2題、その他計画的な研修参加等もできている。更に、教員学習会1回/月の開催、研究授業の取組2名、その他全員がオンライン等を活用した多くの研修に計画的に取り組むことができた。ひとり一人の教員の支援は、時間をかけて対応していく必要を感じているとともに、キャリア開発ラダーが教員の成長に合ったものになっているかを再度検討し見直しを行っていく。</p>	<p>キャリア開発ラダーの内容の検討を行いさらに教員が成長できるシステム作りができるようにしていく。</p>
学修成果	32.国家試験合格率の向上が図られているか	3.6	<p>国家試験合格率は97～100%の合格率を維持している。国家試験対策は、3年間を通して支援できるパスに準じている。支援体制は整備され、学生の意識も高い。</p>	
	33.退学率・休学率の低減への取り組みをしているか	3.3	<p>本年度は、休学2名内1名は進路変更にて令和5年1月31日にて退学。学年による細やかな支援で休学・退学の減少に繋がっている。定期面接、保護者との連携、定期的なストレスチェック、カウンセリング案内の実施を行っている。</p>	
	34.卒業生の活躍及び評価を把握しているか	3.6	<p>卒業生サポートキャンパスの開催時、実践力評価アンケート調査の実施を2年間継続、今後評価を行う予定である。</p>	
学習成果	35.卒業生の活動状況を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.2	<p>関連施設、臨床教員と連携し、卒業生の状況の把握ができている。また、サポートキャンパスを1年目、3年目看護師を対象に実施している。そこででくる卒業生の意見を反映し教育内容に追加している。</p> <p>総合看護技術演習で卒業生が看護師役や患者役として参加協力してもらっている。</p>	<p>関連施設、臨床教員とさらに連携し、卒業時の技術確認など実施していく。</p>
学生支援	36.進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.3	<p>殆どは慈愛会に就職するため、慈愛会外の施設を希望する学生の支援が不足していると感じている。各施設の募集パンフレット等は学生がいつでも見れるようにしている。</p>	<p>4月に就職オリエンテーションを行い、支援していく。</p>
	37.学生相談に関する体制は整備されているか	3.4	<p>学年担当が心理面のサポートをする他、カウンセリング案内も定期的に行い対応している。本年度は、ご意見箱設置の設置を行った。カウンセリング回数は減少している。</p>	

評価項目		評価	考 察	今後の課題
学生支援	38.学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.8	関連施設の奨学金制度、公的奨学金制度、またコロナ禍での緊急学生給付金制度等も学生にも定期的に情報提供し、支援体制は整備されている。また、社会人対象の専門実践教育訓練給付金も多くの社会人学生が活用している。更に放送大学とのダブルスクールで学ぶ学生や経済的に困窮している学生に対する返済不要の奨学金（節英会）が加わり、学生への篤い経済的支援に繋がっている。	
	39.学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.6	教務主任や実習担当主任、事務長を中心に、計画的に健康管理を実施している。小児感染症や B 型肝炎ワクチン、コロナワクチン等の接種指導を実施した。結果、コロナ感染のクラスターを発生させることなく、学生の安全を守ることができた。また心理カウンセラーとの連携も図り、心の健康にも早期に対応できる体制がある。	
	40.課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.5	コロナ感染状況下で中々課外活動がなされていない状況にあったが、次年度からの活動は期待できると考えられる。	R5 年度は、活動が出来るように支援していく。
	41.学生の学習環境への支援は行われているか	2.9	学校ハード面の課題はあるが、ICT 環境整備、本年度は、シミュレーション機材の充実によりシミュレーション室を確保でき、学生の効果的な学習につながっている。	シミュレーション室の環境をさらに整えていく。
	42.保護者と適切に連携しているか	3.0	学生は 18 歳成人となつてはいるが、支援の必要な学生は保護者と連携を図りながら協力をもらっている。	
	43.卒業生への支援体制はあるか	3.2	卒業後も多くの学生が訪問してくれており、職員は就業後の様子やキャリアアップの悩み、私的な相談などにも一先輩として関わっている。前述の卒業生 1・3 年目のサポートキャンパスは必要とされており、次年度も計画している。	
教育環境	44.施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.8	ハード面で難しいところはあるが、今年度も ICT 環境整備、シミュレーション学習環境に力を入れ整備できた。 職員の評価では、昨年同様、更衣室・トイレ等が不足する。演習室が狭い。図書室が遠く利用が難しいなどの意見が多かった。	シミュレーション室を更に整備し、学習環境を整えていく。
	45.防災に対する体制は整備されているか	3.0	防災訓練は年 1 回実施し、マニュアルが整備され、学生一人ひとりに避難用グッズも準備している。今後、防災マニュアル、備蓄等含め再検討していく。	
	46.臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えているか	3.3	臨地実習指導者の配置、適数を満たしている。また、定期的な各施設の実習指導者会議の参加継続、年 2 回の合同実習指導者会議等で学生支援について共有している。 部署によっては指導者不在の病棟もあるが、教員は臨床指導者の協力が得られていることを高く評価している。様々な背景を抱える学生が増えていることからさらに、連携を密に図る必要がある。	
教育環境	47.臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしているか	3.3		
	48.臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしているか	3.2		
	49.臨地実習指導者と教員の協働体制を整えているか	3.2	月 1 回の実習指導者会議、年 2 回の全体実習指導者会議、教員・指導者合同研修会で情報交換し、日々の実習指導の中で協働できるように体制を整えている。さらに臨床教員とも連携し、体制を強化している。	
	50.入学選考試験の種類をわかりやすく明示しているか	3.5	入学選考試験の種類、選抜方法は明確になっている。また選抜方法も明確になっている。 募集要項は新入生やオープンキャンパス参加者のアンケートを参考に学校	

評価項目		評価	考 察	今後の課題	
学生の受け入れ	51.入学者選抜の方法は明確になっているか	3.4	案内やホームページの内容、オープンキャンパスの内容を検討し、希望に添うようにしている。また、学生募集要項に本校の強みを紹介、学生の声や高校教諭の声を反映しながら検討し、内容を毎年見直し掲載している。		
	52.学生募集の広報には志願者の知りたい情報を網羅しているか。	3.6			
	53.志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされているか	3.3	志願者・合格者等の推移とその評価も行われている。 しかし、推薦入学出願者は27名（昨年30名）減少し、一般入学出願者26名（昨年26名）と維持できた。令和5年度入学者数（45名予定）は確保できているが、受験者数減少傾向は進んでいる。		少子化の中での学生確保は重要な課題でありその中でもアドミッションポリシーにあった学生を入学受け入れできるように入試の形を検討していく。
	54.選抜方法と学生の状況について検討しているか	2.9	指導困難学生が少なくない。今後はさらに、そのような学生が増えることが予測されるため、しっかり評価し検討していく必要がある。		
財務	55.教職員は学校がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解しているか	3.0	適時に経済状況について会議等で共有している。（電気料金の高騰等）今後も教職員が組織の一員としてマネジメントの基本である「ヒト」「モノ」「カネ」を意識して行動できるよう、情報の共有等を行っていく。		
	56.教職員はそれぞれの観点から財政について考え行動しているか	3.1			
法令等の遵守	57.法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.3	県学事法制課、くらし保健福祉部医師・看護人材課看護係等と相談しながら、法令を遵守し、適正な運営がされている。		
	58.個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.3	個人情報保護管理規程が作成されており、学生オリエンテーションや実習前、その他必要時に指導している。 今後も情報リテラシーや SNS の功罪等も学生に分かりやすく指導し、倫理に即した行動ができるように支援していく。 教員は個人情報保護に関する意識は高いと思われるが、一人ひとりの管理手法まで確認できていないところもある。		
法令等の遵守	59.自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.4	自己評価で課題となった内容は次年度の事業計画に具体的に追加し、課題の改善に努めている。職員会議、学校運営会議、学校評価委員会等で協議している		
	60.自己評価結果を公開しているか	3.6			平成23年度から教育自己点検・自己評価、令和元年度から学校関係者評価を開始しその結果を公開している。
社会貢献・地域貢献	61.学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.0	看護協会や外部からの講師派遣要請への協力は積極的に行っている。また、慈愛会関連施設、看護部支援室への学校施設・備品の貸出などを実施している。		
	62.学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.0	引き続きコロナ禍ではあるが、少しずつボランティアが再開され、学生も積極的に取り組んでいる。街頭募金、鹿児島マラソン、障害者スポーツ大会等できるところから協力している。昨年度同様、献血の協力も行っている。		R5年は1年生が国体ボランティアに参加予定である。
	63.地域ニーズに適正かつ継続的に貢献しているか	2.9	R4年度は県内施設への就職率98%であり、地域への貢献は高い。また本年度は、鹿児島県看護教育協議会会長校としての活動を積極的に行っている。		
	64.国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか	3.4	国際的な視野を広げるための授業科目として国際看護があり、令和3年度からは国際看護の非常勤講師が決定、学生は多様な視点で学んでいる。しかし、学生の卒業時到達度の評価では国際的な視点が低く、学習内		

評価項目		評価	考 察	今後の課題
国際交流	65.国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えているか	2.8	容や時期等も検討していく必要がある。また令和4年度は慈愛会のEPA看護師等との交流は実施できなかったため、令和5年度は年間計画に挿入し、実施できるようにしていく。 ネット環境は整備されており、インターネットを通じて国際的視点を学べる環境はある。 国際的な視野を広げるための授業科目として国際看護がある。	
	66.海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えているか	1.5	入学資格には問題ないが、実際の受け入れがないため、体制の評価が難しい。	
研究・研修活動	67.教員は研究活動に取り組んでいるか	2.9	本年度は1例、倫理審査受け実施中、慈愛会学会で発表予定である。	
	68.教員の研究活動を支援する体制があるか	2.7		
	69.教員は年一回以上研修に参加しているか	3.7	教員の専門領域、経験年数を基に研修計画を立て、参加している。WEB研修を含め看護協会での研修等、多くの研修に参加できた。	
	70.研修で学んだことを教育に還元し活用しているか	3.3	教員会議等で情報共有している。それぞれの教員がそれぞれの教育場で活用している。	

### 自己点検・自己評価比較

